



3月3日は「桃の節句」。雛（ひな）飾りに女の子の健やかな成長を願う。雛たちが口にする一つに「菱（ひし）餅」がある。菱餅にあやかかったおすしをいただいた=写真。菱餅の緑・白・ピンクは厄除けや健康、子孫繁栄などのシンボルだという。この3色は「残雪（白）の下には新芽（緑）が吹き、雪の上には桃（ピンク）の花が咲いている」と解され、春への思いが込められている。気象庁は春を3～5月と定義。その間の予報が発表された。東日本では穏やかな春が望めそうだ。

2017.3.5

「気象コンパス」主宰

古川 武彦



菱餅

このような長い期間の予報は「季節予報」と呼ばれ、予測手法は「短期予報」とかなり異なる。天気は西から変わるといわれるが、高・低気圧が上空の偏西風に流されてくるほどの意味だ。短期予報では予測が50時間程度と短いため、予測領域はヨーロッパを含めずアジア規模で十分だ。

しかし、季節予報では偏西風は何度も地球を巡るため、北半球のみならず南半球を含む地球規模で考える必要があり、さらに海水温なども予測しなければならない。このような予測モデルは「大気・海洋結合モデル」と呼ばれ、全球を対象にしている。

天気予報は各国が責任を持っているが、気象庁は実質的に地球全体の季節予測を行っていることになる。観測・通報などの国際協力やスパコンのおかげだ。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)



鹿島神宮の「祭頭祭」が9日、行われた。勇ましい甲冑（かちゅう）姿の「大総督」を先頭に、色鮮やかな衣装の囃人（はやしびと）が長いカシ棒を組んでは解きながら、「イヤートホトホヤー」とはやしなから練り歩き、威勢のいい掛け声が神宮の森に響き渡った。

祭頭祭は奈良時代のころ、武運長久を祈って旅立った防人たちの「鹿島立ち」の故事にちなむとされるが、本来は五穀豊穰（ほうじょう）などを願う祈念祭。大総督は新発意（しばち）と呼ばれる2人の少年、左方と右方の隊列を率

2017.3.12

「気象コンパス」主宰

古川 武彦



鹿島立ち

いる。「鹿島立ち」は門出や旅立ちを意味するが、春は若人が学びやを後に社会へ巣立つ季節。

天気予報の世界でも一種の旅立ちがある。旅立つのは人ではなくコンピューター化された予報モデル。毎回決まった時刻に計算がスタートする。短期予報は1日に3回、週間予報は2回という具合に、84時間、264時間予報という旅路（計算）に向かう。

スタートの装いは、気温や気圧、風などの気象要素で「初期値」呼ばれ、最新の観測データが用いられる。予測精度は先に行くほど落ちるため、常に予報の更新が不可欠だ。ユーザーには一回限りでなく、新しい予報のチェックが望まれる。最近ではほとんど見られなくなったが、対象日の予報が発表のたびに変わる「日替わり予報」もあり得る。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)